

中一国語科通信 第五回

口を動かしていますか？

みなさん、こんにちは。昨日の課題配布登校日は、全員が来てくれました。生徒手帳の写真を撮ることができたのはもちろんですが、それ以上にうれしかったのは、みなさん全員の顔が見られたことです。お家の人の協力により、みなさんが元気に梅中に来てくれたのは、とてもうれしいことでした。これは、一学年教員全員の気持ちです。みなさんには、先週の課題などを提出してもらったり、来週までの課題やワークを配ったりした後、写真を撮りましたが、どのような気持ちになりましたか。少しずつではありますが、梅中生の準備を一緒にしていきましょう。

また、昨日受け取った課題を見ましたが、思った以上によくやってくれていたのをうれしく思います（出し忘れてしまった人は、次の登校日に持ってきてくれれば大丈夫ですよ）。課題によっては、分からないことがあると思います。そんな時は学校に電話をしてもらってもいいですし、電話をするのはちよつとという時には、プリントに「ここが分からない」と書いてくれれば対応したいと思いますので、書いてくださいね。

さて、三月から臨時休校がずっと続いている状態で、家の外に出る機会も減り、家族以外の人と会うことが少ない毎日を送っているみなさん、今の状態はちよつと、いや、かなりストレスがたまっている人もいるのではないのでしょうか。学校で友達とおしゃべりしたり、元気に走り回ったりするのは、あともうしばらくの辛抱です。

そこで、今回の第四回目の学習プリント課題は、『口の体操』・『早口言葉』です。最近、体だけではなく、口を動かすことも減っているのではないのでしょうか。先生達も今は授業をすることができないので、口を動かすことが格段に減っています。このままでは、まずいなと思い、みなさんに配ったものなどを使って口の体操をしています。

ここで、大切なのは、『意識』です。ただ書いてあるものをとりあえず読むのではなく、『アナウンサーになったつもりで』とイメージすること、**「口を大きく開けよう」**や、**「しっかり発声しよう」**などと意識することができます。そうすると、読む時の姿勢も変わってきます。テレビを見て分かる通り、猫背の**アナウンサー**はいませんから、口を大きく開けるだけでなく、**自然と背筋を伸ばして読むことができる**のではないでしょ

うか。その上で、「リズムミカルに」、「はきはきと」が意識できると、読んでいても、聞いていても楽しい声だし練習になるでしょう。

プラスワン

さらに、+1レッスンです。

あくまでも、『口の体操』や『早口言葉』は、ウォーミングアップです。これで口がうまく動くようになったと思いますので、余裕のある人は、自分の好きな文章（本でも、新聞でも、あるいはお気に入りのマンガでも）を持ってきて、声に出して読んでみましょう。小説やマンガならば、地の文と台詞で声の調子を変えてみたり、新聞ならばそれこそアナウンサーになりきって読む練習をすると、頭も心もすっきりすると思います。ぜひ、やってみてくださいね。ただ、それぞれお家の事情もあります。周りの人の迷惑にならない声の大きさを心がけましょう。



【読書のとびら】

昨日、国語の課題プリントと音読カードを提出してもらいましたが、音読カードの裏にある読書カードに自分の読んだ本の題名や一言感想を書いている人が何人かいました。まだざっとしか見ていませんが、これからじっくり読むのを楽しみにしています。

さて、今回紹介する本は、小説ではありません。

クラフト・エヴィング商会の『ないもの、あります』（ちくま文庫）という本です。

クラフト・エヴィング商会店主のあいさつによると、「よく耳にするけれど、一度としてその現物を見たことがない」、そんなものを古今東西より集めて、紹介している本だそうです。たとえば、「堪忍袋の緒」。いったいこれは、どんなものでしょう。そもそも、売り物なのでしょうか。そんな疑問をもったあなた、ぜひこの本を手にとって、店主の解説を読んでみてください。この店主、なかなか独特の感性をもっており、語り口がひょうひょうとしています。もしかしたら、解説に引き込まれてしまうでしょう。もしかしたら、あなたのお気に入りの「ないもの」が、このお店で見つかるかもしれません。何しろ、このお店には、店主がセレクトした他とちよつとちがう品物が26品もあるのですから。